

東京交通新聞 2008 年 12 月 1 日

<運営協に対応マニュアル>

**千夕協 ケア輸送委で検討**

千夕協は 11 月 26 日、千葉市・ホテルグリーンタワー幕張で第 3 回ケア輸送委員会（武藤厚委員長）を開き、福祉有償運送運営協議会への対応マニュアル「地域の移動困難者の移送を考える」を作成、提案した。次回以降、内容を検討し、正式決定していく。タク事業者が各自治体の福祉運営協議会に出席する際の指針として作成したもの。地域の移送のあり方を考えていくことに主眼を置いている。

内容は Q & A 形式を中心に構成。「自家用有償運送とは？」といった基本編から事前対策、実際の会議での注意点など大きく 28 項目で解説している。

「実施要項の着目点は？」では委員となった事業者が具体的に質問できるよう 16 個にわたる細かな設問を用意した。

武藤委員長は「何かマニュアルがないと対応に困ってしまう。内容の取りまとめを行っていきたい」と話している。

<調査結果を報告>

**千夕協**

千夕協（岩佐嘉一会長）は、このほど加盟事業者約 240 社（約 7 千台）の福祉車両数など 2008 年 8 月末現在の福祉関係実態調査をまとめた。ウエルキャブなどセダン型回転シート車の導入は 46 社 185 台となっていることがわかった。

福祉関係の車両設備として、車いすは 39 社 88 台、チャイルドシートは 29 社 38 基、ストレッチャーは 26 社 37 台がそれぞれ導入している。

訪問介護事業は、県指定 19 社、市町村指定 4 社。介護保険を請求しない救援事業実施は 41 社、そのうち有料 15 社、無料 26 社となっている。

乗務員の資格取得状況では、介護福祉士 14 社 30 人、ヘルパー 1 級 11 社 17 人、同 2 級 74 社 484 人、ケア輸送士 5 社 22 人、看護師、ケアマネージャーがそれぞれ 1 社 1 人ずつ。

調査はバリアフリー新法への対応として各地域の福祉に関する状況を把握するため実施。ケア輸送委の事業計画となっている。